（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型通所支援事業所リーノ　児童発達支援			
○保護者評価実施期間	令和７年　４月　１日	～	令和　8年　2月　２８日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	16	（回答者数）	12
○従業者評価実施期間	令和　7年　４月　１日	～	令和　８年　2月　２８日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	2	（回答者数）	2
○事業者向け自己評価表作成日	令和　8年　3月　３１日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さん一人一人の特徴、課題を発達（運動面、理解面）、社会性といった側面で分析し、課題の抽出と具体的な支援を実施している。その都度支援を行った後に職員間で振り返りを行い、次の具体的な支援を考案している。	支援者それぞれが我流の支援にならないように、職員間で情報を共有して、統一して支援になるように心掛けている。	お子さんそれぞれの特徴をしっかりととらえられるように、分析力、見立ての力を培っていくこと。職員研修も敵に取り入れてスキルアップを図っていく。
2	上記1で行っている支援を、個別支援計画にしっかりと落とし込んで作成し、それを親御さんにお見せして同意を得ている。初回の聞き取りでは、親御さんお願いをしっかりとお聞きするようにしている。	現場職員と児童発達支援管理責任者が、常に密に情報を共有すること。出来る限り児童発達支援管理責任者もお子さんの様子を実際にみるようにしている。	職員間だけではなく、親御さん、関係機関との連携もしかりと図っていく。
3	毎回の療育の後には、口頭もしくは必要に応じ動画も撮ってお子さんの様子を親御さんにしっかりと伝えるように取り組んでいる。	出来る限り様子が分かるように細かくその日の様子をお伝えするように心がけている。	口頭でお伝えすることが多くなるので、特に利用を始めたお子さんに対しては、適に動画も撮って様子を分かりやすく伝えていけるように工夫をしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者のみなさんが交流できるような企画を行うことがていないところ。	毎年学習会などの企画をして、その時に交流が図れるようにと対応をしてきたが、親御さんの交流が限定的であり、しっかりと交流を図るという面では不十分であったように感じている。	親御さんに交流に関するアンケート等を実施し、ニーズを把握したうえで、どのような企画を行っていくことが良いかを検討する。
2	実際にお子さんに様子をみていただく機会が少ない点。	お子さんにしっかりと活動に意識を向けてほしいという狙いから単独通所が基本になっている。	お宿さんが実際に様子をみていいただけるような機会について検討をしていく。
3			